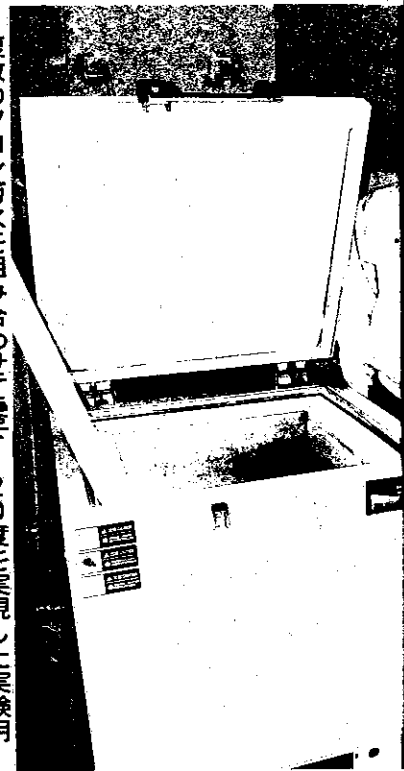


# 細胞保存用の

複数のフロンガスを組み合わせて零下120度を実現した実験用のフリーザーと三好社長



## 鳥大が来月、製

主流で、より低い温度工や樹脂成形域では200℃の高圧冷、ゴム製品電源が必要なため、零 験など多様な下196度の液体窒素 参人も視野にが使われるケースが多 三好社長は「3社は家庭用10 は難しくな0℃電源で駆動する1 が、価値を固台200万円以下のフ リーザーを製品化し、 正な温度を新 新たなフリーザー市場 付けていきな を開拓したいと考えた。 している。

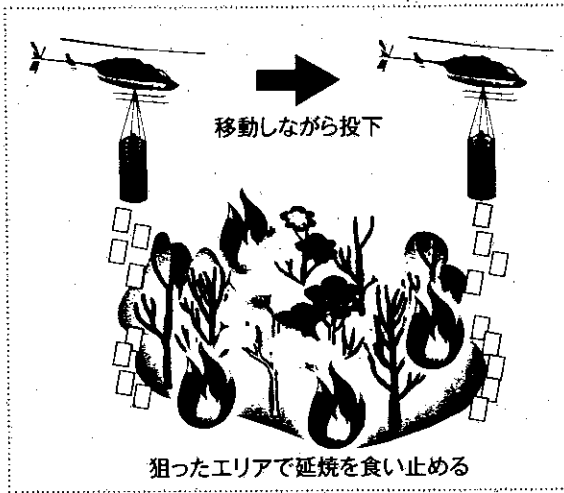
## インドネシア森林火災対策

# 消火剤ビジネス化

米子・イルカ  
カレツ

鳥取大学との共同開発で「ゲルパック消火剤」を開発した米子市のイルカカレツ(朝山規子社長)は、世界的な問題となっている森林火災対策用としてインドネシアで同消火剤のビジネス化に挑む。国際協力機構(JICA)の中小企業海外展開支援事業の調査事業への採択が決まり、ビジネス化に向けた現地での適合性の調査に着手する。

世界的な影響が問題と 広がるために放水活動 になっている。同地での だけでは消火が難し 火災の多くは泥炭地域 く、効果的な消火技術 で発生、地中でも燃え の開発が求められてい



# 地域経済 フオのチ

広大な熱帯林を持つインドネシアでは、大規模な森林火災がたびたび発生しており、森林面積の減少や住民への健康被害、気候への



ゲルパック消火剤で延焼を阻止する実験(イルカカレツ提供)

同カレツなどが開発した消火剤はゲル化した消火水をパックに詰めた物で、個体の特性を生かして投下位置を予測し、ヘリなどから直接火点に投下することが可能。延焼の防止に大きな効果が期待されている。

2017年度はインドネシアに消火剤を持ち込み、同国の国家防炎庁や環境森林省などの関係機関と延焼防止の効果や投下システム運用の可能性を調査するとともに、ビジネスとしての市場調査を行う。18年度以降は現地での事業化に向けた実証実験を目指す。(真田透)

## 新たな取引可能性探る 米子

「あたらしや運動」プレゼン商談交流会

第2回「あたらしや運動」セミナー&プレゼン商談交流会



鳥取県中小企業団体中央会(谷口謙二会長)の「あたらしや運動」の「あたらしや運動」プレゼン商談交流会が2月28日、米子市で開かれた。県内から参加した多様な業種の約30社が、プレゼンテーションでアピールされた商品やサービスを軸として、新たな取引ができないか可能性を探った。

12社・団体がプレゼンを行い、自慢の商品やサービスを紹介。貨物輸送の服島運輸(米子市)の服島龍男社長は、中山間地での人、モノ輸送の在り方で「旅客輸送の会社と力を合わせて貨客バスのなものを開発し、展開できないか」とのアイ

「1億 大 実現に向 き方改善 つつあり 日に仕事